

性的少数派も盛り込み

弘前市男女共同参画 次期案まとめ答申

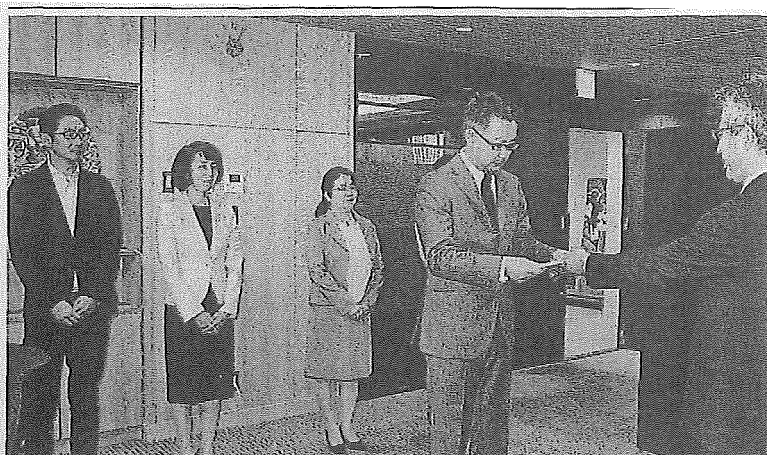
弘前市男女共同参画
プラン懇話会（会長・鳥
飼宏之弘前大学大学院

理工学研究科准教授
は16日、次期市男女共
同参画プランの策定に
ついて市に答申した。

（少数派について盛り
込むなどしており、同
プランは今年度内に策
定される見通し。

これまで記述がなかつ
た性的マイノリティー

懇話会は昨年5月に
市から諮問を受け、現



櫻田市長に次期市男女共同参画プランについて
答申する鳥飼会長（右から2人目）

プランの点検、評価を
含め計8回の会合を開
き、2018～22年度
を計画期間とする次期
プラン案をまとめた。

次期プラン案の基本
理念は「一人ひとりが
互いを尊重し合い心豊
かに暮らせるまち弘
前」。全ての人が活躍
し、安心して暮らせる
社会の実現を目指す
とした。

多様な社会の実現に
向け、あらゆる人に配
慮した環境整備の対象
として、女性や障害
者、高齢者のほか性的
マイノリティーも記
述。災害が多発傾向に
ある中、男女共同参画
の視点を踏まえた地域
防災の必要性も指摘
し、防災における政策
・方針決定過程には女
性の参画促進を図ると
した。

鳥飼会長は「女性の
活躍に特化せず、でき
るだけ多くの人が土俵
に上がって議論し、前
に進めるような内容を
目指した」と櫻田宏市
長に答申書を手渡し、
櫻田市長は「仕事や役
割分担の在り方など、
子どもの頃から考えら
れる方法を提案した
い」と述べた。

（下山和枝）

※この画像は当該ページに限って陸奥新報社
が利用を許諾したものです。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp